

魚が出現した。

40. Lobotidae マツダイ科

(4回出現、5尾)

*Lobotes surinamensis*

(BLOCH) マツダイ

(4回出現、5尾)

5個体とも7月に沖縄北西海域に出現した。出現個体の全長範囲は8.7—26.8mmである。

41. Pomatomidae ムツ科

(3回出現、4尾)

*Scombrops boops*

(HOULTUYN)

ムツ (3回出現、4尾)

1—2月に出現した。出現海域はSt O-6、A-9、B-7で、出現個体の全長範囲は5.5—6.1mm。

42. Serranidae スズキ科 (29回出現、89尾)

*Lateolabrax japonicus* (CUVIER)? スズキ? (1回出現、1尾)

スズキと思われる稚魚で1973年7月のO-5に全長16.5mm1尾が出現した。

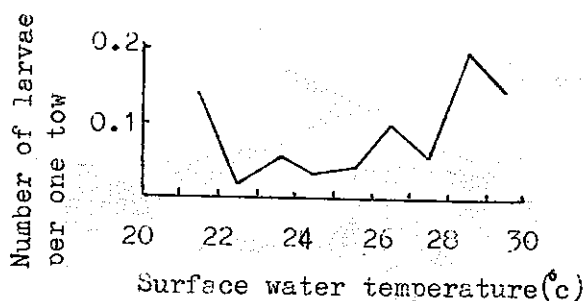
Epinephelinae or Lutjanidae ハタ亜科またはフェダイ科 (24回出現、49尾)

ハタ亜科やフェダイ科は図版-39に示されるように第2—3背鰭棘条が鞭状あるいは鋸葉状に長く伸び、また腹鰭も同様に長く伸びる。

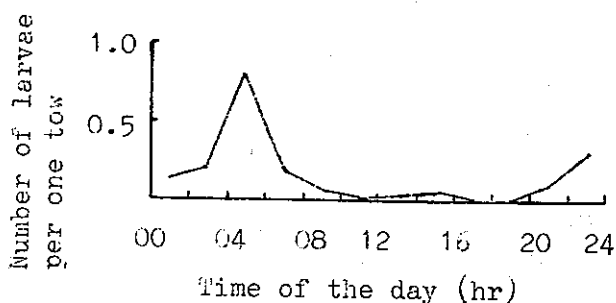
出現状況は四季を通して出現し、出現盛期は夏期(7月)である。出現海域は東支那海域を除く全海域で主分布域は近海域である。出現点の表面水温階層別1網当りの稚仔魚の出現個体数は図-40に示した通りである。表面水温範囲は21.3—29.1°Cでモードは28—29°Cである。また21—22°Cにも山をもち、高温時に出現する種類と低温時に出現する種類があると思われる。つぎに時刻階層別の1網当りの出現個体数は図-47に示した通りである。04—06時にモードがあり、昼間よりは夜間に多く出現した。出現個体の全長範囲は3.2—12.0mmである。

Serranidae gen. spp. スズキ科種不明 (5回出現、40尾)

黒潮主流域と湾内に出現した。出現個体の全長範囲は4.8—14.8mmである。

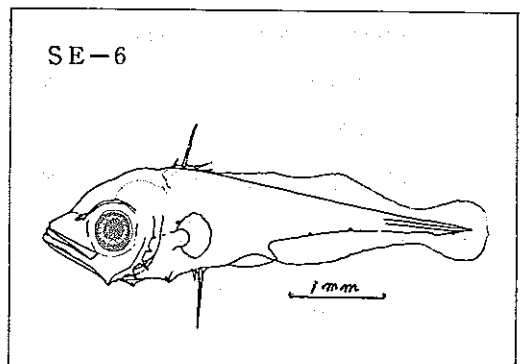
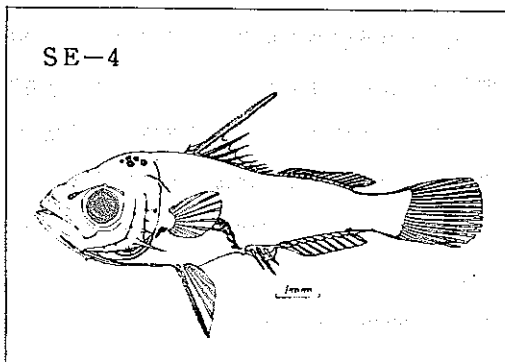
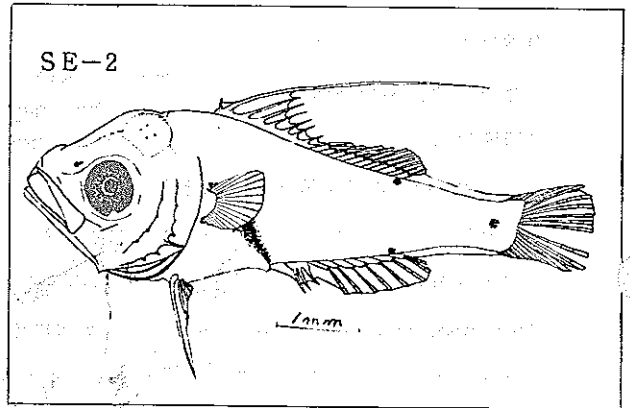
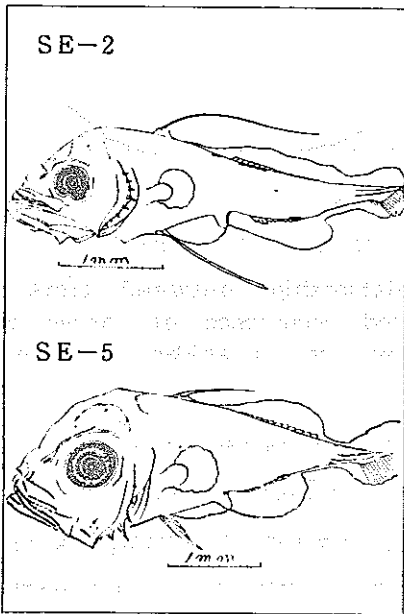
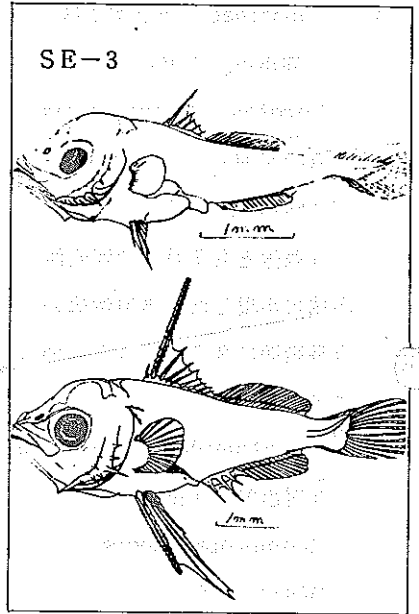
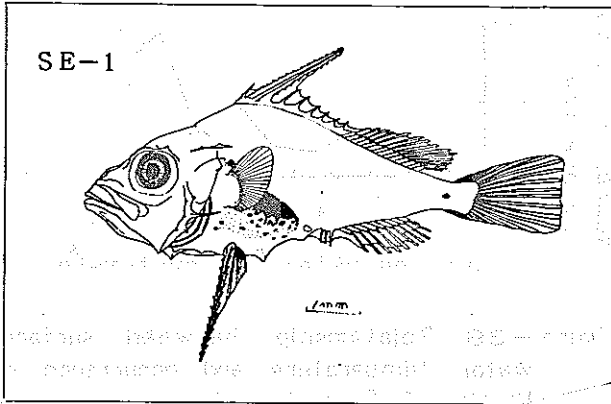


Figure—39 Relationship between surface water temperature and occurrence of larvae of Epinephelinae or Lutjanidae per one tow

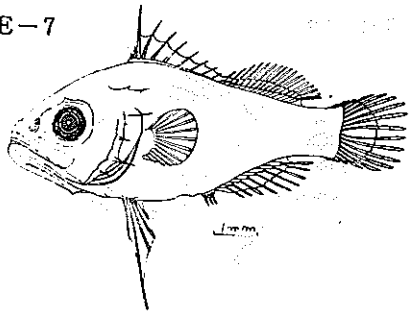


Figure—40 Relationship between time of the day and occurrence of larvae of Epinephelinae or Lutjanidae per one tow

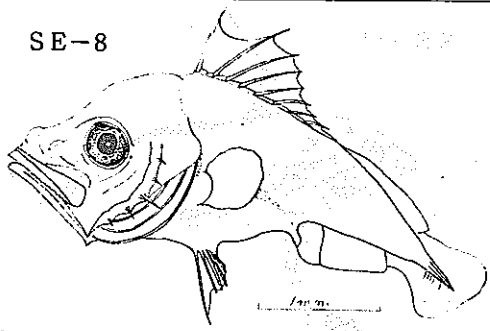
Plate - 45 Larvae of EPinephelinae or Lutjanidae



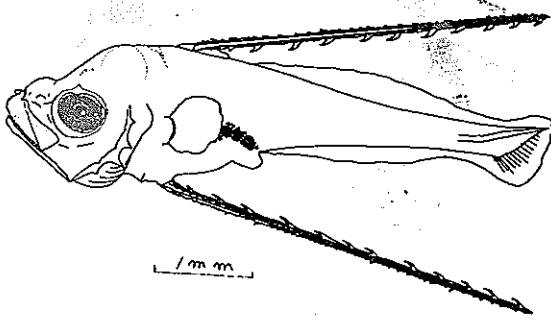
SE-7



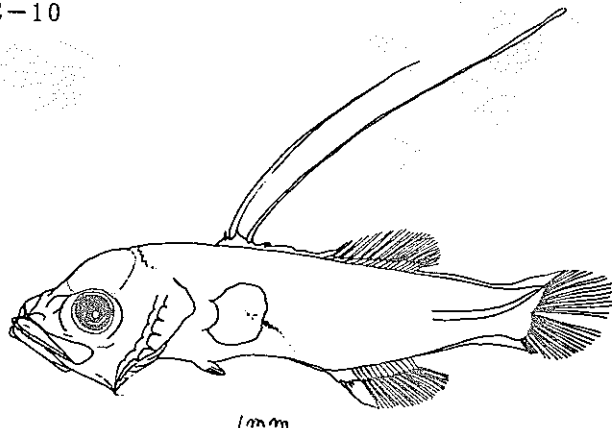
SE-8



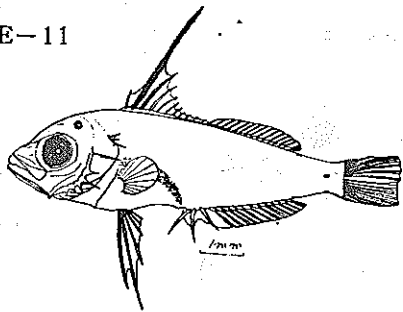
SE-9



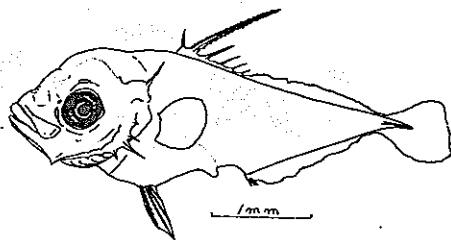
SE-10



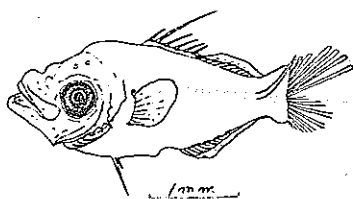
SE-11



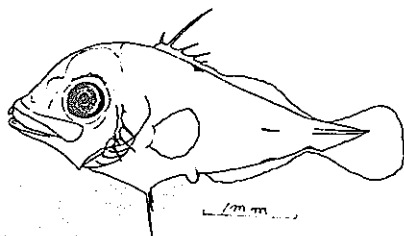
SE-12



SE-13



SE-14



SE-15

